

## 令和4年度 学校目標

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	自立と社会参加をめざし、キャリア教育の視点から教育課程の統一と見直しを図り、生徒が主体的に取り組む授業作りを行う。	生徒一人ひとりの障害の状況や発達段階を的確に捉え、新学習指導要領に基づいた新日課表での教育と評価を行いカリキュラムマネジメントを推進していく。	① 授業アドバイザーや外部講師からの助言、校内外の専門職によるアセスメント等により、生徒の実態に合った、主体性を引き出す授業作りをする。また授業評価や効果的な振り返りの方法を検討する。 ② HRや授業での取組、チャレンジタイムをもとにキャリアパスポートを作成し、生徒の自主性を育む。	① 生徒の実態に合った授業を実施することにより、生徒の主体的な行動が増えたか。授業評価を次の授業作りにかつすることができたか。 ② 授業や新日課のチャレンジタイム等を通し、生徒が取り組む内容を自分で決めたり、学習の記録や振り返りをキャリアパスポートに記したりすることができたか。
2	生徒指導・ 支援	生徒一人ひとりの人権に配慮し、個別の教育的ニーズに応じた指導・支援を計画的、組織的に行う。	校内外の多職種との連携により、多様化する生徒の実態に合わせた支援方針や授業内容を検討していく。	① 担任と支援連携グループ間等での日常的な情報共有、また定期的、臨時的に校内外の専門職、外部機関とケース会議を開き、有効的な生徒支援を行っていく。	① 相談担当、校内専門職等が必要に応じ学年会に参加することで、効果的な生徒支援へつなげることができたか。また、外部機関、ブロック内専門職等とケース会議を行い、能動的に生徒支援を行えたか。
3	進路指導・ 支援	生徒一人ひとりの自己実現をめざし、自ら選択、決定できる進路指導・支援を行う。	自立と社会参加に向け、将来の生活を生徒自身がイメージできるように、1年次から系統的なキャリア教育を推進する。	① 1年次のケース会議の時期を早め、多職種の視点を入れたアセスメントを行い、生徒が自身の将来をイメージできるような授業や支援を実施する。 ② 生徒が進路先をイメージできるように、関連する事業所の映像収集、タブレットによる閲覧、スマートフォン等で事業所情報が確認できるようにする。また実際の進路先をイメージできるような授業を行う。	① 進路選択に向けた適切なアセスメント、個別教育計画のもと、生徒自身が卒業後に行いたいことをイメージできるようになったか。 ② 30か所以上の事業所の情報を収集し、面談等で実際に活用することができたか。事業所情報は最新のものを活用し、実際の進路先をイメージできるような授業を行えたか。
4	地域等との 協働	インクルーシブ教育推進を図るために、校内教職員・保護者・地域の理解促進、地域の諸学校、諸機関への発信、貢献活動を行う。	校内外の資源を活用し、教育活動を展開することで、「地域に開かれた学校」を実現し、本校の教育への取り組みを地域へ発信していく。	① 地域のセンターとして、地域の教育力向上へつなげる。またその取組を通信や地域の諸会議で伝えことで、特別支援学校の役割を地域に発信していく。 ② 教育活動や、学校での最新情報、センター的機能に係る情報をHPや学校だより等で定期的に発信していく	① 支援だよりにより本校での取組を載せたり、地域の諸会議で伝えたりすることで、特別支援学校の果たす役割について、地域にわかりやすく伝えることができたか。 ② 地域、または他校との交流、本校での教育活動等の様子、センター的機能に係る情報について、HPや通信等で定期的に発信できたか。
5	学校管理 学校運営	学校運営の組織的な体制と安全・安心な学校作りのための体制の構築を図る。	・組織的で効率的な業務遂行の定着を図る。 ・防犯、防災マニュアルの整備と活用を通し、実効的な訓練の充実を図る。	① チャットや、オンライン会議等の活用により、業務の効率化を図る。 ② 不審者侵入時や災害発生時の実際の動きを想定したマニュアルの見直しと周知方法の工夫をする。また訓練設定を工夫し、実効性のある訓練を全校で行う。	① 会議で検討する内容を事前にチャットで共有したり、オンライン会議を取り入れたりする班、グループが増えたか。 ② 不審者対応や防災マニュアルが反映された効果的な訓練ができたか。また訓練において、職員、生徒が自ら考え動くことができたか。